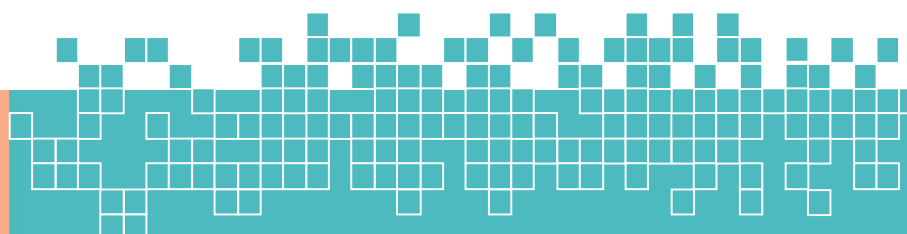




令和 6 年度 事業報告書

公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会



公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会 令和6年度 事業報告書

1. 公益社団法人としての事業について

公益社団法人日本重症心身障害福祉協会は、「重症心身障害児者の尊厳を尊重することを基本理念に据え、ご本人及びそのご家族の福祉の増進並びに地域の福祉環境の向上に寄与するとともに、重症心身障害療育の理念及び成果の普及」を目的として、

- (1) 重症心身障害児者施設職員に対して利用者の意思の尊重（意思決定支援）・施設内虐待・人権意識等について積極的に見つめ直す機会を作り良質な医療・福祉サービスの提供に努める。
 - (2) 重症心身障害児者施設におけるICT・ロボット活用を促進するために、
 - ア) ICT・ロボットを活用して、業務効率化や職員の業務負担軽減を推進しながら安全・安心な障害福祉サービスを提供する事業所に関する情報を収集・提供する。
 - イ) 療育・療養介護等の支援場面においてICT・ロボットを活用する事業所に関する情報を収集・提供する。
 - (3) 重症心身障害児者施設・法人における人材確保についての現状・課題・在り方について情報を収集・提供する。
 - (4) 本年度は、改定された障害福祉サービス等報酬及び診療報酬が施行されることから、その影響等を各委員会において検討する。
- の4つの重要かつ横断的内容を包括した諸会議、研修会等からなる「令和6年度事業計画」を着実に推進し、ご本人及びご家族の福祉の増進等に寄与しました。

2. 諸会議の開催について

(1) 総会（定時総会）

定時総会は、令和6年5月23日（木）千葉県千葉市において開催された。
主な決議は、前年度の事業報告書、決算報告等が承認された。

(2) 理事会

理事会は、第1回を令和6年4月19日（金）、第2回を翌年3月7日（金）にオンラインにより開催した。

(3) 各種委員会の開催

①医療問題検討委員会

当委員会は、令和6年度診療報酬改定により、療養病棟入院基本料を算定する病棟の減収が見込まれるために緩和策を求める要望について委員会を開催して検討を行うとともに、全国施設協議会において改定内容についての情報を発信した。

②福祉問題検討委員会

当委員会は、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の内容について全国施設協議会において情報を発信するとともにその後の施行状況について「処遇改善加算の取得の有無についてのアンケート」等の把握に努めた。

また、原子力施設から30キロ圏内にある病院等の原子力災害時の避難計画策定が求められており、このような立地にある施設の状況を把握するための「原子力災害避難計画における避難先の確保に関するアンケート」等を行った。

③実態調査委員会

当委員会は、施設実態調査の「個人チェックリスト」から「超・準超重症児者」に係る内容を抽出の上、該当項目を追加した報告書を作成するためのシステムプログラムにより、令和元年度から休止となっていた「超重症児者・準超重症児者実態調査」報告書を作成、配布した。

④学術委員会

当委員会は、令和6年度第35回重症心身障害療育学会学術集会の開催に関して実行委員会委員長との協働により企画・運営するとともに、応募論文の査読、読売療育賞の選定、重症心身障害の療育（学会誌）の編集などを行った。

また、重症心身障害療育学会の運営方針等について協議を行った。

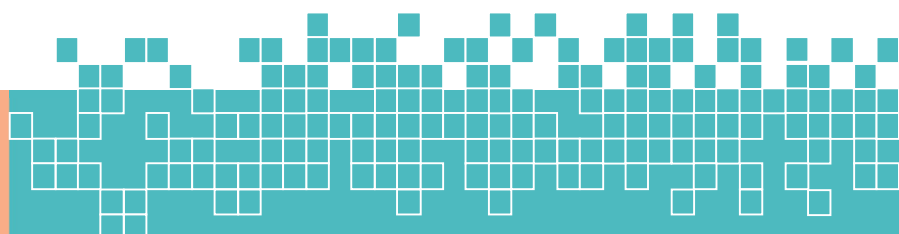
⑤人材育成・研修委員会

当委員会の職員研修部会は、全国重症心身障害児者施設職員研修会として職種ごとに6コース「看護師コース」「栄養士・調理師コース」「医療技術管理コース」「保育士・児童指導員等（療育職員）コース」「施設管理研究会コース」「看護管理研究会コース」の内容の企画を行うとともに、部会長はじめ各委員が研修会における主催者挨拶、講師等の役割を担った。

また、専門看護師研修部会は、協会認定重症心身障害看護師の認定審査を行うとともに、フォローアップ研修会の企画・運営を行った。

⑥広報委員会

当委員会は、前年度に行った広報紙「重症児とともに」の編集方針を基にして紙面構成や内容により発行した。また、ホームページでは、トップページに会員施設からの提供写真を掲載し、重症心身障害児者施設の雰囲気を見られるようにした。



⑦特別委員会

当委員会は、委員長が全国施設協議会において特別講演「療養介護のこれからの課題ーガイドラインの前提を考える」を行い、この後の方向性を示した。

3. 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会等の開催について

(1) 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

当協議会は、厚生労働省・こども家庭庁・千葉県・千葉市の後援を得て令和6年5月23日(木)、24日(金)、千葉県千葉リハビリテーションセンター愛育園が幹事施設として千葉市東京ベイ幕張ホールを会場として集合型開催とした。参加は122施設及び行政担当者、総勢413名が参加した。

本協議会は、令和2年度から新型コロナウイルス感染症により中止やオンラインによる開催として行ってきたが5年ぶりに集合型2日間の開催として、初日午後には厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課による行政説明、「療養介護のこれからの課題ーガイドラインの前提を考える」をテーマとした特別講演、2日目は午前「地域共生社会における重症心身障害児者のグループホーム」をテーマとしたシンポジウムを行い、午後には各委員会から令和5年度の活動報告、その後東日本・西日本施設協議会の報告により協議会を終了した。

(2) 東日本・西日本施設協議会

東日本施設協議会は、第51回協議会(大会)を11月28日(木)・29日(金)に宮城県仙台市の仙台サンプラザを会場として集合型により2日間開催し、57施設から150名の参加があった。この大会は、初日に行政説明とシンポジウム(2テーマ)、2日目には特別講演2題と東日本施設協議会総会が開催された。総会では重症心身障害医療・福祉の向上に尽力された故 岡田喜篤 先生を偲んで児玉理事長より追悼講演が行われた。

西日本施設協議会は、第45回協議会(大会)を令和6年11月14日(木)、15日(金)の2日間、徳島県徳島市のJR ホテルクレメント徳島を会場として集合型により2日間開催され、63施設から199名の参加があった。この大会は、初日に総会が行われ、こども家庭庁の担当官による行政説明、特別講演とシンポジウム、全体会として「日本重症心身障害福祉協会報告」及び「施設内感染症アンケート報告」という内容で開催された。

4. 重症心身障害児者施策の対応について

会員施設の施設長等は、全国施設協議会において厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課課長補佐から令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の内容についての行政説明を

いただき、重症心身障害児者施設における行政施策の理解を深め、現場に反映した。

5. 全国重症心身障害児者施設職員研修会の実施について

(1) 看護師コース

令和6年9月5日(木)～6日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）開催担当：中国・四国ブロック

受講施設：92施設、受講者数：134名

テーマ：「人材育成に携わる看護師に期待される役割と行動」

初日は、「ともに育つ人材育成」、「重症心身障害看護師のこれからを支え・育み・考える人材育成」、「管理・指導的役割を担う看護師のポジティブ・マネジメント ～強みを活かす人材育成～」の3講演を開講し、2日目には実践報告会、グループ討議において、「自施設における人材育成の現状と課題」をテーマに意見交換や情報交換が行われた。

(2) 栄養士・調理師コース

令和6年10月17日(木)～18日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）開催担当：東京・神奈川ブロック

受講施設：88施設、受講者数：119名

テーマ：「多職種で支える、栄養管理・食事支援」

初日は、「重症心身障害児者の栄養支援」、「嚥下調整食について」、「災害時の食と備え～実食訓練のすすめ～」の3講演を開講し、2日目には3例の事例発表とグループディスカッション、全体討議にて討議の結果を共有した。全体を通して、栄養士向け、調理師向け、全体向けと設定することにより専門性を高め、活発な情報交換が行われた。

(3) 看護管理研究会コース

令和6年10月30日(水)～11月1日(金)

会場：TKP ガーデンシティ広島駅前大橋（広島市）

開催担当：中国・四国ブロック

受講施設：108施設、受講者数：138名

テーマ：「重症心身障害看護の魅力ややりがいについて語り合おう ～世代間のギャップをのりこえて～」

初日は「人材育成～次世代の看護者・管理職育成に向けて～」、「特別支援学校の教育現場から次世代の育成を考える」の2講演、2日目には「次世代を見据えた人材育成」、「日本的経営2.0を目指して」～人材育成と社風づくり～の2講

演を開講し、実践報告、グループ討議において「次世代の看護管理者を育てるための取り組み」について議論を深め、3日目は全体討議を行った。

また、3日目には施設見学（広島県立総合リハビリテーションセンターわかば療育園・若草療育園・若草園）を実施した。

（４）医療技術管理コース

令和6年11月21日(木)～22日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）

受講施設：80施設、受講者数：182名

初日の午前中は障害のある方たちの「楽しさ」「意欲」を引き出すためのリハビリ機器・改造おもちゃの紹介及び活動を中心とした基調講演「「誰かのため」「楽しい」から広がる障害のある方たちとの製作アプローチ」を開講、その後、職種ごとの6分科会に分かれて、取組事例の紹介、課題等について討議した。リハビリテーション分科会では、『重症心身障害を持つ方々のリハビリテーションとテクノロジー』をテーマにICT機器の導入について議論を深めた。

2日目の全体会では活発な討議が行われ、放射線技師分科会の新設についても討議された。

（５）保育士・児童指導員等（療育職員）コース

令和6年12月12日(木)～13日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）

受講施設：74施設、受講者数：113名

初日は「重症児・者の意思決定支援～QOL支援とQOD支援の実際～」、「障害のある子の好奇心を引き出し「できた」に繋げるモノづくりアプローチ」の2講演を開講し、その後に、施設発表、グループディスカッションを「終末期支援や看取りの経験」と「療育・日中活動の工夫」をテーマに、意見交換や情報交換を行った。

2日目は「地域共生社会におけるボッチャの可能性」、「重症心身障害児・者のてんかんの特徴と生活介護場面での対応」の2講演を開講し、その後に全体討議を行った。

（６）施設管理研究会コース

令和7年1月16日(木)～17日(金)

会場：TKP ガーデンシティ広島駅前大橋（広島市） 開催担当中四国ブロック

受講施設：92施設、受講者数：199名

初日は厚生労働省からの行政説明、「共生社会における重症心身障害施設の役割 残すもの・目指すもの」、「介護の外国人材獲得が困難に?」、「私が取り組んだ“ひと”づくり!」の4講演を開講、2日目は分散討議として今の施設に大きな課題となる「外国人雇用の成果と課題について」、「人材確保・育成と定着のための取組について」、「各施設のカスハラ・クレーム対応の状況について」等の6テーマについてグループワーク形式で活発な意見交換がなされた。

6. 第35回重症心身障害療育学会学術集会について

第35回重症心身障害療育学会学術集会は、厚生労働省、こども家庭庁、福岡県、北九州市、読売光と愛の事業団等の後援、北九州観光コンベンション協会の協賛を得て、令和6年10月3日(木)、4日(金)の2日間、福岡県北九州市において開催した。2日間で399名(事前申込382名、当日申込17名)の参加があり、幹事施設である北九州市立総合療育センターのスタッフ、企業展示出展業者の方々を含め485名が参加した。演題は14セッション69題の発表が行われた。第20回読売療育賞は、読売療育賞1題(信愛医療療育センター)、奨励賞3題(福島整肢療護園、横浜療育医療センター、東部島根医療福祉センター)が受賞された。

学術集会前日には北九州市立総合療育センターの施設見学が実施され、19施設の39名が参加した。

7. 在宅重症心身障害児者の支援者養成について

本取組みは、在宅の重症心身障害児者を含めた医療的ケア児等への支援に会員施設が深く関り、支援者の養成のみならず地域の医療的ケア児等への支援及び支援体制の構築に携わっていることからそれらの取組みについて把握し、全国にフィードバックすることで地域の支援水準の底上げをすることに照準を移し、会員施設における医療的ケア児等への支援の取組みについてホームページに掲載しており、この一覧表の更新を行った。

また、東日本施設協議会においては、行政説明「重症心身障害児者と医療的ケア児等の施策について ~みやぎ障害者プラン等から~」を設けるとともに、「地域の医療的ケア児者等支援における重症心身障害児者施設の役割」をテーマにしたシンポジウムを開講した。西日本施設協議会においては、「医療的ケア児の在宅生活支援の現状と問題点」、「要介護高齢者と重症児者・医療的ケア児者に対する行政的支援」についての講演を開講した。

8. 重症心身障害児者施設永年勤続者の表彰について

本表彰では、会員施設において10年以上の永きにわたり重症心身障害児者の医

療・福祉に従事された487名（87施設）が表彰された。表彰式を千葉市の東京ベイ幕張ホールで定時総会の前に行い42名（21施設）が出席した。

9. 日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師制度の充実について

認定証授与式は、定時総会の前に19名が出席して行われ、代表者3名に認定証が授与された。認定証授与式後には、専門看護師部会委員及び認定者が集う、意見交換会を開催した。

また、既認定者フォローアップ研修は、オンラインと会場によるハイブリット形式にて実施した。

【令和6年度認定者および認定更新者の数】

- ・第13回認定者数 申請者36名 認定者36名
- ・第9回認定更新者数 申請者38名 更新者37名

(1回目更新19名、2回目更新18名)

- ・第4回フォローアップ研修会

参加者数 158名（オンライン参加132名、会場参加26名）

10. 全国重症心身障害児者施設実態調査の実施について

当調査は、公法人立の当協会会員の重症心身障害児者施設の利用者を対象とし、療育の向上に資するため毎年実施しているが、令和6年4月1日現在での施設等の実態を調査した。

また、超重症児（者）・準超重症児（者）の実態調査についても、個人チェックリスト・新版【第II版】入力データにて調査できる集計プログラムの完成により報告書を作成した。

11. 関係機関及び関係団体との連絡、連携の強化について

全国重症心身障害児（者）を守る会、独立行政法人国立病院機構、全国社会福祉協議会等の関係団体との情報交換により、相互の連携強化を図ることができた。

また、全国施設協議会、研修会等において重症心身障害児者福祉制度の所轄省庁であるこども家庭庁及び厚生労働省の各担当官による行政説明をいただくなどにより連携を深めた。

12. 広報紙の発行について

広報紙「重症児とともに」は、令和6年8月末日と令和7年3月末日にて年2回発行し、当協会会員施設、関係者及び関係機関等へ配布した。発行部数は計1,248部。

